# 14th JAMAHA スタディーツアー

2013年3月26日
～
4月1日

平成25年（2013）
4月1日
土屋 惇

## 大都会ヤンゴン

ヤンゴンは、やはり他の地方と比べて都会だと思いました。日本の都会と比べれば、まだそこまで発達していないけれど車の量や人の数は多かったです。

歩道にはミャンマーの記念品やお土産屋がずらりと並んでいました。僕がミャンマーを観光したときの四か月程前にアメリカのオバマ大統領が訪れたので大統領のTシャツや写真もたくさん売っていました。ぼくはこのことからこの国の民主主義化が進んでいるのだなと感じました。

このような大都会にもミャンマーの文化はしっかりと残されています。ヤンゴンにはたくさんのパゴダがあります。ぼくは今回のツアーでヤンゴンの三つの代表的なパゴダを訪ねました。一つ目はシュエダゴンパゴダ、二つ目はボウダタウンパゴダ、そして三つ目はチャウタッジーパゴダです。一番衝撃をうけたのは一つ目に訪れたシュエダゴンパゴダです。パゴダを初めて見たせいもありますが、その雄大さに感激しました。しかし一番大きく記憶に残っているのは、最後に訪れたチャウタッジーパゴダの寝釈迦仏です。高さ約十八メートル、長さ約六十六メートルと予想をはるかに上回る大きさで圧倒されました。二番目のボウダタウンパゴダは仏陀の遺髪が展示されています。しかしお布施でかくれてしまっていて見ることができませんでした。このパゴダの目がチカチカするほどのまぶしい金の装飾はとても美しかったです。しかし、貧しい生活をしている人が多い国だというのになぜこのような素晴らしい金や宝石の装飾が実現できるのか疑問に思います。

## インレーについて

インレー湖にある水上畑や家には色々な工夫が施されていると思います。ボートで小学校に向かう途中に湖の上にトマト畑がありました。よく見るとたくさんの棒がささっています。この棒は、竹出来ていて約五メートルおきに畑にさして流されないようにしているそうです。このような竹の棒はこの畑だけではなく、色々なところにありました。小学校に着く少し前には家が規則正しく並んでいて、各家に細長いボートがありました。前と後ろに一人ずつ乗り、ボートの中には荷物を置いて移動するということも分かりました。この場所は水路が道路に似ていると感じました。

小学生とのゴミ拾い活動では、みんなが一生懸命作業をしていたので良かったです。拾いながらキャンディーやキャラメルなどのお菓子の袋が多いことに気付きました。みんなが気軽にゴミを捨てられるような場所にゴミ箱を設置すればこのようなゴミは減ると思います。小学生の人たちはみんなやる気満々で我先にとゴミ袋を取りにいっていました。

ゴミ拾いが終わった後見に行った水牛の水あびはとても迫力がありました。あんな近くで見られる機会は滅多にないのですごく心に残っています。

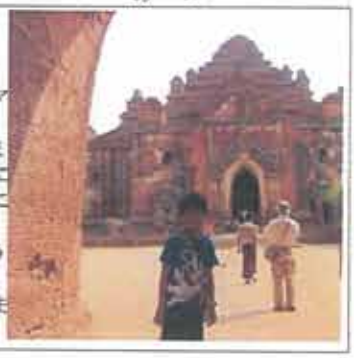
インレー湖は下水や農薬などで汚染しきっているそうです。きれいな湖を取りもどすために日本の技術援助が必要なのです。

## バガンについて

バガンにはたくさんの寺院やパゴダがあります。その中でこのツアーで訪れた寺院、パゴダはシュエジーゴンパゴダ、アーナンダ寺院、ダマヤンヂー寺院、そしてタビィニュ寺院です。

バスの中でツアーガイドさんが各目的地の大まかな説明をしてくれました。その説明を聞いて興味をもった寺院があります。それは三つ目に訪ねたダマヤンヂー寺院です。興味をもった理由はこの寺院の建設にまつわるエピソードが現実にあったとは思えないような話だったからです。「王家の次男が王位に就くために父と長男を暗殺し、その罪を償うために建てられた」そうです。

他にもそれぞれの寺院にまつわるエピソードを調べてみたいと思います。



## トンテの孤児院

ぼくは孤児院に着いて、この国の貧しさを改めて実感しました。バスをおりたときに近くにいた中学生たちの洋服はボロボロでした。このことからこの人たちの服の数はすごく少なく大切に着ていることが分かりました。日本では気に入らない服は直ぐに捨ててしまったり物を大切にしません。物を大切にすることはこの人たちを見習わないといけません。

この孤児院は近くにあるお寺が造ったものです。食事風景の見学で驚いたことがあります。それは孤児院の人たちは自分が前にしている料理に心の底から感謝していて、そのことがぼくにまで伝わってきたことです。日本人は食事中にテレビを見たりしゃべりながら食べるのがあたりまえになってきています。しかし孤児院の子どもたちは一言も話さず、自分が食べている食事に集中していたのです。

この国の孤児院は子どもを入れた人が訪れれば、誰でも受け入れるそうです。この孤児院も以前は八百人程度だったけれど、ここ数年で子どもが急に増えて千人を超えています。

このような貧しい生活を送っている人たちのために日本などの先進国の技術をたくさん伝えていけば喜んでもらえると思います。

## ミャンマーについて分かったこと

ぼくがミャンマーのヤンゴンに着いて、一番はじめにフィリピンに似ていると思いました。飛行機の中から見たときは、田んぼがすごく多くて日本の田舎のように感じました。しかし、空港から出たときは木が多かったりむし暑かったりしているところがフィリピンに似ています。調理方法は少し違うけれど食材も似ていました。

しかし、生活環境ではやはりミャンマーの方がフィリピンより劣っています。たとえば、道路整備がその一つです。ミャンマーは多少道路がきれいで安定していますが道幅がせまくて車が二台安定した所からはみ出なければ通れない程です。

ぼくは通訳している人やホテルのスタッフが話しているのを聞いてミャンマー語を勉強したいと思いました。ミャンマー語はやわらかい感じで、奥が深いところが良いです。ガイドさんにミャンマー語のあいさつについて教えてもらいました。そのときにミャンマー語の奥の深さに気付きました。

このツアーで色々学べて楽しめたのはガイドさんのおかげでもあります。ガイドさんの素晴らしい日本語で、目的地の説明をしてくれたり一日の流れを話してくれたりしました。むずかしい日本語で質問しても普通に答えてくれるので驚きました。

ぼくがこのツアーで学んだことは、フィリピンとミャンマーの違いや共通点の他にもミャンマーの文化や寺院、パゴダのことなどがあります。この春休みに今回のツアーに参加できて本当に良かったと思います。また、大人になってもミャンマーに行きたいです。